



Q 住宅を新築しましたので、近々、トートローメーも引っ越します。古い家と新しい家の2カ所分の重箱を準備しようと思いましたが、義母の知人から、新しい家の分だけで良いといわれました。これは、沖縄のしきたりですか？

(那覇市・Kさん)

A 今回はトートローメーの引っ越しについて、いろいろな観点からご回答させていただきます。

【遷座式と入仏式】

今までお住まいになっていた住宅で、「トートローメーを引っ越します」とご報告することを、遷座式(せんざしき)といえます。これは、お仏壇やお位牌(いはい)の座わらわっている場所を遷して移動する儀式の専門用語です。一般的には、お性根抜(しょうねぬ)きとも言われ、沖縄では、ヌジフアヌグワン(抜牌の御願)という地域や家庭もあります。また、これからお住まいになる住宅で、「トートローメーを引っ越しました」とご報告することを、入仏式(にゅうぶつしき)と言います。これは、お仏壇やお位牌を新しい屋敷に迎え入れる儀式の専門用語です。一般的には、お性根入れともいわれ、沖縄では、案内のお願(ウンチケータウグワン)という地域や家庭もあり

ます。お義母さまの知人の方から、遷座式では重箱をお供えせず、入仏式でのみ重箱をお供えするとのアドバイスをお供えいただいたことは、とても理にかなった沖縄のしきたりですから、少しだけ学問的に考えてみたいと思います。

【供物(くもつ)の対比法】

ちよつとだけ難しくなりませんが、なるべくわかりやすく解説させていただきます。まず、供物とは、お仏壇やお墓のお供え物をさす専門用語で、沖縄ではウサギムンといえます。対比法とは、それぞれを比べることにより、その内容をわかりやすくするという考え方です。重箱を例にしますと、中身が白色か紅色か、お供えするかしないか、数量などを対比することで、その儀式や法要の内容が一目瞭然になる作法・心得のことを言います。

【供物の色彩での対比法の例】

納骨や初七日から四十九日、新盆(ミーボン)、新十六日祭(ミージュールクニチー)、二周忌から十三回忌の重箱は、骨餅(フニムーチ)や骨蒲鉾(フニカマボコ)という白色の餅や白色のかまぼこを添えることで、若焼香(ワカスコー)を表現しています。また、旧盆や十六日祭(ジュールクニチー)、二十五回忌(地域や家庭により、フニムーチやフニカマ

ボコの場合もある)、三十三回忌の重箱は、色餅(イルムーチー・紅蒲鉾という紅色の餅や蒲鉾を添えることで、大焼香(ウフスコー)や終焼香(ウワイスコー)を表現しています。このように、餅や蒲鉾の色の対比により、どのような内容の儀式・法要かを表現していることがわかります。

【重箱の数による対比法の例】

沖縄の二部の地域や家庭では、初七日、三十五日、四十九日の重箱は、二対(チュクン)の4箱をお供えすることにより、奇数の七日(ナンカ)という連夜(たいや)を表現することがあります。また、二七日、三七日(奇数だが、焼香客が少ないとの考え方から偶数とする場合がある)、四七日、六七日の重箱は、半対(ハンカ)の2箱をお供えすることにより、間七日(マドウナンカ)という偶数の連夜を表現することがあります。このように、重箱の数量の対比により、初七日、三十五日、四十九日の大切さを表現していることがわかります。

【重箱の有無による対比法の例】

この応用として、沖縄では地域や家庭により、重箱をお供えするかお供えしないかの判断があり、遷座式では重箱をお供えせず入仏式でのみ重箱をお供えすることがあります。

この理由として、「ご先祖(ウヤファージ)は、食欲でウンチケーされるから、新しい住宅でしか重箱は使わんよ」とおっしゃる方もおられれば、「両方で重箱をお供えし(ウサゲ)たら、どっちが新築か迷うはず」とおっしゃられる方のご意見も耳にしたことがあります。

いずれも、故人さまを大切に思う心に相違はないでしょう。今後、儀式や法要、年中行事をお勤めするのは、新築の住宅になるとい入仏式を中心とする考え方からの沖縄の重箱の作法や心得の一部であると理解されて差し支えないかと思えます。お義母さまや知人の方のアドバイスに感謝ですね。Kさん、住宅の新築おめでとうございませう。

